

松禪寺報

第99号

<https://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 令和4年7月25日

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

一以之貫

孔子の言葉です。

わが道、一を以て之を貫く 是忠恕なり

忠は自然に持っている真心

恕は人が生来ある思いやりの心

すなわち「仁」のこと

人間が生まれながらに有する最も本能的で

基本的な徳と云える。

この世のすべては一に始まり一に帰るが

その一はいったいどこに帰るのか

未だ生を知らず いずくんぞ死を知らん

だれ一人 生を知るものはいない、

また死を知る人もいない。

生や死の意味をあれこれ思案するより

まず与えられた生を今と言う一日を

力の限り生きてみよと孔子は言いたいのである。

「一を以て之を貫くは」時が刻々と変化し、

転換し続ける現代社会、心その事象に真正面から

向き合い柔軟性をもって対処してゆく

世界でたった一人の私、

かけがえのない私という人間

今日を今を充実し有意義に生きよ

今ある私を大事に

「天上天下 唯我独尊」天にも地にも

私という命は世界中で一つしかない

かけがえのない生命なのだ

今を懸命に生きれば

おのずと道は輝きを放つ

一を以て之を貫くは

今を懸命に生きる事だ

昨日じゃない明日でもない

今日 即今 今ですよと。



※この文書は沖縄県島尻郡・妙心寺派「洪濟寺」住職・能山宗忠師の著書『赤蜻蛉2』より転載。色紙も能山ご住職筆で、和田山・瑞泉寺様の晋山式にて拝領しました。

薬師祭で福寿増長と疫病退散を祈願

鐘楼屋根の葺替え工事完了を祝い、鐘つき放題実施

いつ雨が降るかもしれない曇り空の7月10日(日)、松禪寺と栗尾ふるさと委員会(委員長・藤田正一氏)が、「薬師祭」を執り行いました。

また、これに先立ち、鐘楼屋根の葺替え工事が完了したため、同日午前9時から住職がお経を唱えながら鐘を打ち、世界平和と復興祈願を行いました。そ



▲お経を唱えながら鐘を打ち鳴らし世界平和を祈りました

の後も、参拝者皆さんに自由な鐘を撞いて、手を合わせていただきました。

午前10時から境内の薬師堂において、約20人の参拝者と共にお経を唱え、心身安寧、福寿増長を祈願

するとともに、『ぎやくおんじんしゅう却瘟神呪』という疫病退散を祈る際に読経する呪文を唱え、第七波に入ったといわれる新型コロナウイルスの収束も祈りました。

参拝者皆さんには、栗尾ふるさと委員会が供えられた餅と、松禪寺が供えたお菓子をそれぞれお持ち帰りいただきました。

人が多くあつまる行事の開催が難しくなった今日、人々の祈りの機会は何としても確保していきたいと考えます。

感染症に留意しながら

妙心寺で花園会新亡供養開催

妙心寺派花園会本部では大本山妙心寺の法堂(はつどう)を会場に、6月27日から7月1日までの5日間、花園会新亡供養を執り行われました。連日の猛暑でしたが、時折法堂内を吹き抜ける風に癒されながら、無事円成されました。昨年逝去された松禪寺の檀家さんも届けており、戒名を読み上げていただきました。お参りの皆さん、出頭された管長猊下はじめ和尚さま方には感謝申し上げます。



▲妙心寺の法堂で行われた新亡供養(妙心寺 Facebook より転載)

お盆のいろいろ

いのちのありがたさを見つめるお盆

今年もお盆が巡ってきます。もともとお盆は、亡くなった親を思う心からはじまったものです。お釈迦さまの十大弟子の一人が目連という方は、お弟子の中でも神通第一といわれていますが、またこの方は大変な母親思いで、ある時、死んだ母親を神通力でたずねますと、母親が餓鬼道に落ちて苦しんでいたのです。



それを救おうとお釈迦さまに相談すると、七月十五日の雨期の修行あけの日に供養をなさいと言われたので、その日に大勢のお坊さんに施し物をして母親の供養をしました。それが、お盆のはじまりです。お盆の期間は、入りの日が十三日で、明けの日が十六日で



すから、四日間です。大体、前の日の十二日に仏壇をきれいに掃除し、お位牌も拭いて花をとりかえます。お家によっては、仏壇の前に小さい机を置いて、そこに野菜などのお供え物をいつもより多く供えたりされています。ナスで牛をつくったり、キュウリで馬をつくってお供えするといいですね。

十三日は仏壇に灯りを灯し、あるいは門口や石灯籠などに灯りをつけ、先祖の霊をお迎えします。つまり迎え火です。

十六日は送り火です。ご先祖さま、仏さまを送る日です。京都の五山送り火や花火大会なども、このような意味合いで開催されています。

お盆は、先に逝かれた亡き人々やご先祖さまと、心を通い合わせる大切な行事です。自分にいのちを授けてくださったご先祖を大切に、いのちのありがたさを見つめる、それが、お盆です。こまやかな心くばりで迎えたいものです。



仏さまのお膳「お霊供膳」

法事などで仏さまにお供えするお膳を、お霊供膳りょうぐぜんといいます。昔はお供えしたお霊供膳と同じものを法事の参列者は食べていました。これを「お斎とき」といい、僧侶と参列者が共に食事をする仏事であって、単なるお食事会ではありません。故人の遺徳を偲び、施主からの施し(布施行という修行)の膳を共にいただくのが法事です。なお、お霊供膳の一例を左記に示しました。器の数は4つでも良いです。肉や魚を用いないだけでなく、色付けのための蒲鉾や、ネギやニラなど刺激が強い香味野菜も入れてはいけません。ただし宗派や地域差はあると思います。

お せ が き

8月7日（日曜日）
午前10時より執行

施餓鬼会は、お釈迦様の十代弟子のお一人、阿難尊者（あなんそんじや）の故事により、飲食供養（おんじきくよう）の功德（くどく）により亡者（もうじや）を救う行事として起こったものです。「餓鬼（がき）に施す」と書きますが、餓鬼とは六道（ろくどう）（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天道）のひとつで、苦しみの世界であり、食べ物がない飢えの世界なのです。しかも、餓鬼は自分の力で餓鬼世界から抜け出すことができないため、施餓鬼供養がその救いの道とされています。有縁（うえん）はもとより、無縁（むえん）の衆生（しゆじやう）に対しても供養する法要であり、自分自身

令和4年度 施餓鬼会法要順番

順番	施主	住所
1	山門施餓鬼、添施餓鬼	
2	柴田 賞三 家	豊岡
3	西垣 勝美 家	栗尾
4	中島 義昭 家	豊岡
5	水縄 誠 家	栗尾
6	水縄 誠 家	栗尾
7	中島 寿博 家	日高町
8	鶏魂供養	栗尾

に与えられた生命に感謝する意味合いもあります。今年も多数の和尚様により法要を執り行います。施餓鬼はもともと初盆など特定の霊を供養するだけのものではなく、ご先祖様を始め、志す精霊にご供養することによって施主皆様の現世安穩が得られるといわれています。



令和4年度棚経の日程（予定）

棚経実施日	地域
8月8日（月）	（遠方）
8月9日（火）	清滝→本城→柴地→山根→貝田
8月10日（水）	久畑→石原→佐田→大貝→平田→佐々木
8月11日（木）	南尾→出石町（午前）
8月12日（金）	豊岡市→和田山町→福知山市→岩滝
8月13日（土）	西谷

まもなくお盆を迎えます。お盆は、普段から何も催促なさらぬご先祖さまとの語らいの時でもあります。8月13日が迎え火にあたり、16日が送り火です。お墓をきれいに掃除して、ご家庭では仏壇を丹念に掃除して、お花、ろうそく、お線香、果物、お菓子、季節の野菜などを供えます。お寺からは、8月8日から13日まで、棚経といって各檀家を廻って回向いたします。右表の日程で参る予定ですが、諸般の都合から急遽変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。朝から廻りはじめますが、午後になる時もあります。